

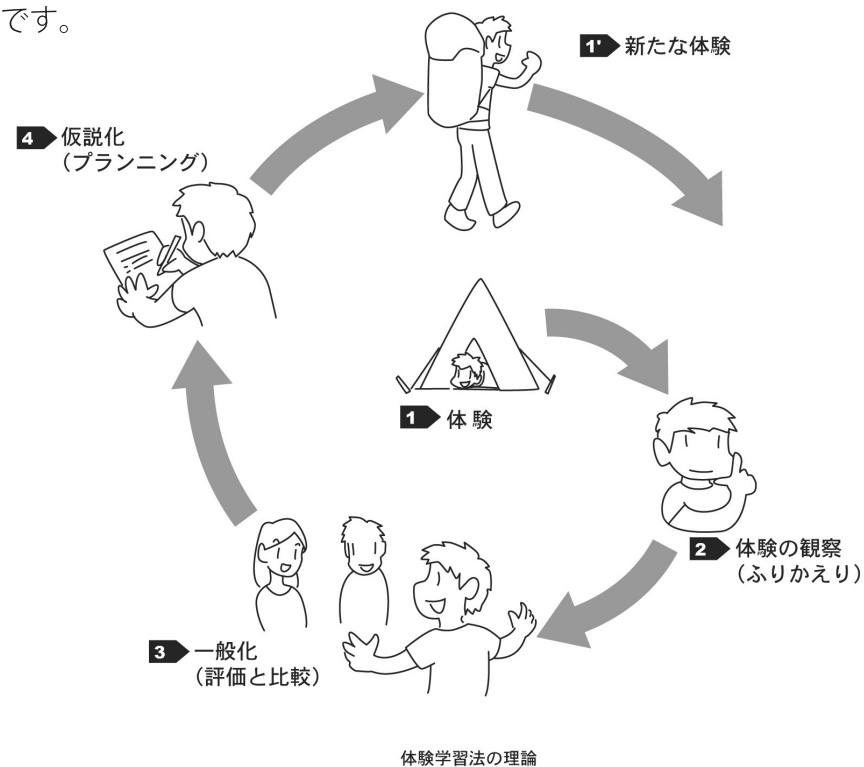
(3) 一般化(評価と比較: Think)

このステージは、自分の体験を一般的な事象と比べて、「どういうレベルなのか/どんな意味を持つのか/他にどんな方法や発見があったのか」といった評価を行ったり比較検討してみたりするものです。たとえば、「今日の山は登山としてはどの程度の活動レベルなのか」「途中で見た生き物たちと自分の生活にはどんな関係があるか」「別の季節やルートだったらどんな感じだったろうか」などと考えたり評価したりすることで、自分の体験を客観的に見ることができ、その体験の意義を整理して記憶に留めることができるのです。

(4) 仮説化(プランニング: Glow)

評価ができれば、次に体験する時をイメージして仮説化(プランニング)を行います。「生じた疑問をどう解決するか」「もっとステキな体験にするには?」「こどもたちに体験してもらおうとしたら?」など、いろいろな状況を設定して次の体験にどのように取り組むかを考えます。「次にどうするか」を考える過程で、「それまでの自分の体験から得られた知識やスキル」や「まだできないのでこれから学ぶべきこと」などが明確化します。これらの認識が得られた段階が本当の意味での“わかる”という段階であり、学習者自身が自分の成長を実感することにもつながります。

この4ステージの後は、また次の体験活動にトライします。そして、このプロセスを繰り返すことで、実体験を既習事項や過去の体験と関連づけ、しっかりした経験的学びとして整理して行くことができるのです。



【参考図書のご案内】能條 歩 (2014) 人と自然をつなぐ教育. 北海道自然体験活動サポートセンター, 128p.
※本章の解説は、同書に掲載したものに加筆したものです。



第4章

川の体験活動実践資料

川での体験活動を実践する上で、必要な資料を紹介致します。

